

話題 其の43 : “さようならリンダ ご苦労様でした”

7月31日、我が家の下階に雇われていたフィリピンメイドのリンダが、年季を無事明けて帰国しました。彼女は私がここに住みだして間もなく来たと思われ、2年の勤めが終わったのです。

この2年間、まともに彼女と会話さえ交わしたことはなかったのですが、週に2~3回は窓から手を振って出勤する私を見送ってくれました。殆どが笑顔で見送ってくれましたが、時には心細い作り笑顔や哀しい顔も見かけました。

こちらの人は、夏場の週末になるとお互いの家に招待して、ベランダでバーベキューを楽しみます。それも深夜に及び事は当たり前です。私が友人宅から午前様で帰宅したときも、窓際の洗い場で孤独に後かたづけをするリンダを見かけたものです。下階には3人の子どもが居るようで、12歳くらいの2番目の男の子は英語が凄く美味くて、リンダのことをいい人だと話してくれたことがあります。普通なら、大人として扱って貰えないケースが多いと思うのですが、下階の住人は彼女に優しく接したと思われ。それでも、この2年間、外出など1回も無く、我が家に通うジュリーと時々会話するときも、家人に見つからないよう必死でした。2年間、本当に良くがんばったね。ご苦労様。

今頃は、これまで仕送りしたお金の他に、月給150\$から貯蓄したお金をお見上げに、フィリピンのミンダナオで待っていたご主人と子ども達に苦労話でも聞かせている頃でしょう。

エジプト人のアブ・サイドさんも既に帰国した模様で、新しい管理人(下働き)のエジプト人が来ました。最近、アブ・サイドの笑顔や少し不気味な投げキッス、リンダの手を振りながらの笑顔が無くなって、私にとっては何か味気ない出勤風景です。

話題 其の44 : “アダムとイブ”

先日、イラクを旅してきた若者(バックパッカー)に出逢って、面白い話を聞きました。イラクの優秀な大学に通う学生でも、進化論を否定し「人間の起源はアダムとイブだ」と言って譲らないというのです。試しに私も自分の職場で同じ質問をしてみました。

相手は47歳の女性で、建築関係の専門家、英語は達人、ドイツ留学の経験もありドイツ語も話す。建築関係の図面はコンピューター(CAD)でちゃちゃと描いてしまうようなインテリです。

その彼女に『人間のルーツって何だと思う?』と聞くと、すかさず『アダムとイブよ』と答えました。流石に私の質問の意図を読んでいるようで、「これは、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教に通じる考えで、猿からの進化には誰も確実な証拠は持っていないでしょう だからこれでいいのよ・・・」と言うような説明でした。私も「アダムとイブを見た人は居ないよね」ってやり返すと「そうね、でもアダムとイブの話は素敵でしょ。一組の男女がパラダイスで暮らしていて、禁断のリンゴを食べてしまったので、この世に送られてしまった。それが人間のルーツだなんて・・・」

彼女は唯一絶対の神であるアッラーの偉大な力(創造の主)について語ることはしませんでした。このような話は、ここの人たちの信仰や、神を否定することになるので、深入りするのは要注意です。それと、以前他の同僚と話をしているときでしたが、「ユダヤの神も、キリスト教のイエスも本来唯一の神アッラーの使いなのだ。仏陀だってそうだよ」と確信に満ちた意見を聞いたことがあります。そして「私達が信仰しているイスラムは最後に神に使わされたモハンマドによって教授された歴史的に一番新しい教えだから、最も正しいと言えるのだ」とも付け加えていました。

「アダムとイブの人間起源説」や「イスラム絶対論」を頑なに語り継いでいく思想文化(?)、この中東のイスラム圏に、武力で襲い掛かる「民主化」を旗印にした異文化の連合国があります。“人間にとっての至福とは、自由に思想を楽しむことではないだろうか”と近頃思います。金持ちも貧乏人も同じように、いつでも何処でも希望に満ちた思想を楽しむことが出来ますよね。でも、紛争状態の中ではそれは不可能です。家族、財産、仕事を奪われ、悲しくて怒りや憎しみなどの思いが頭の中で目まぐるしく巡るばかりです。楽しい自由な思想の時間までも奪うのが戦争です。

人間の尊厳性に気付くことなく大きな犠牲を払って、イラク戦争は誰のためだったのか?
